

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	笑顔でつなぐ地域の「宝」継承事業(地域の伝統文化を生かした担い手育成事業)
対象地域	熊本県人吉市
活動概要	<p>本市を含む人吉球磨地域は、熊本県の国県指定文化財社寺建築の8割が存在するなど、文化財の宝庫といわれています。市内には、国指定の7件を始め、建造物、史跡、無形文化財等、数多くの文化財が残されています。</p> <p>本市は、昭和30年国調人口4万7千人を有する県南山間部の拠点都市でした。しかし、その後基幹産業であった農林業が衰退して、現在は人口が3万7千人にまで減少しています。さらに少子高齢化により、高齢化率は27.9%にのぼり、国・県平均を上回っています。</p> <p>このため、基幹産業である農林業や商工業の後継者不足は深刻で、新たな担い手の確保に苦慮し、多くの分野で活動継続が困難な状況に直面しています。</p> <p>さらに、郡市最大の秋祭り・青井阿蘇神社の「おくんち祭り」をはじめ、伝統芸能、食文化、伝統工芸など、歴史や伝統文化の息づく地域でありながら、若年層を中心に歴史観が薄まりつつあり、地域の歴史伝統文化を知らない、関心がないという人々が増えてきており、次世代への継承が危ぶまれてきています。</p> <p>そうした中、本年4月、国の文化審議会が、本市「青井阿蘇神社」の建築物を、国宝に指定するよう文部科学大臣に答申しました。熊本県内初の国宝であり、神社の国宝指定は47年振りとなります。同神社は1200年を越える歴史をもち、人吉球磨の総社として、当地の伝統文化・生活文化の中核的存在です。この機会をとらえて、当地の歴史文化、生活文化を「宝」として再認識するとともに、歴史伝統文化を次世代に継承していく担い手の育成と交流人口の増加を目指したいと考えます。</p> <p>担い手の育成にあたっては、博物館などの教育文化施設の活性化を目的に導入されているハンズオンプログラム(参加型体験学習)の手法により、多様な人々を巻き込み、歴史や伝統文化を親しみやすく面白く感じる「笑顔」、継承活動に誇りや喜びを持って携わる「笑顔」、さらに、地域に愛着を感じる「笑顔」など、「笑顔」あふれる「新たな公」を形成し、持続可能な地域社会づくりへつなげたいと考えます。</p> <p>本事業は、多様な主体とパートナーシップを形成して、今後の継続性に焦点を当てた取り組みを行います。活動は、行政、熊本県立大学、民間団体とで構成される委員会を中心にして、大きく6つの活動に取り組みます。</p>
今年度の主な取組	<p>①適正な地域伝統文化の活用(地域資源調査研究) 熊本県立大学との協働によるフィールドワークとワークショップにより、伝統文化についての現状や課題を整理することにより、プログラム・教材化に向けた指標を明確にする。</p> <p>②ハンズオンプログラム・教材開発 人材育成講座を通じて、地域の伝統文化を生かすためにプログラムを開発する。具体的には、2つのプログラムづくりを行い、教材化することにより、地域住民を対象とした伝統文化学習をはじめ、社会科見学、教育旅行など、市外から訪れる人たちを対象に幅広く活用する。 また、プログラム・教材開発は、実証実験に取り組む等、実践的に行う。 (実証実験)</p> <p>③の担い手の育成(人材育成講座)と連携して、学校教育(1回)、社会教育団体(1回)、本市を訪れる教育旅行またはその他の旅行者の機会(2回)において実証実験を行う。特に、教育旅行またはその他の旅行者の機会については、旅行会社関係者の参加、アドバイスを受ける。</p> <p>③担い手の育成(人材育成講座) 公募による市民を対象に、担い手育成の取り組みを行う。講座で単に学ぶだけでなく、講座を通じて参加者のエンパワーメントを引き出し、修了後には、そのメンバーでNPO法人を設立して、活動の担い手として継続した取り組みにつなげていくものとする。 (講座内容) 第1回:フィールドワークとワークショップ(講師:県大教授) 第2回:伝統文化を生かした地域づくり(講師:磯崎泰博) 第3回:プログラムづくりの基本とプログラムづくり①(講師:市内NPO) 第4回:プログラムづくり②(継続)(講師:市内NPO) 第5回:プログラムの演習とまとめ(講師:藤井誠)</p> <p>④参加者によるNPO法人の設立 すべての取り組みを継続した取り組みにつなげていくために、参加者によるNPO法人を設立するものとする。</p> <p>⑤交流人口の増加に向けた情報発信 広報用パンフレットの制作を行い、地域における伝統文化学習の推進と、交流人口の増加につなげていく。</p>

活動結果	<p>人材育成講座受講生(31名)を主体として、フィールドワークやワークショップなどの体験活動を通じて、ハンズオンプログラムを協働して作り上げると同時に、受講生だけではなく、講師、実証実験参加者を含めた人的な交流ネットワークが形成され、地域の伝統文化を継承し広めていこうとするグループの組織化ができており、「新たな公」の担い手としての定着が期待できる。</p> <p>また、今回の活動を通じて、人材育成やグループ作りのノウハウが関係者に蓄積されたことが効果として挙げられる。これは地域の歴史・伝統文化継承だけではなく、福祉、教育、環境、観光など「他の分野にも応用」することが可能と考えられるため、市全体で市民参画による地域課題解決のためのパートナーシップの形成に有効な手段である。</p> <p>一連の活動を通じて、多様な主体によるパートナーシップという進め方の有効性、重要性を、行政はもちろん、地域にも示すことができおり、行政がNPOや大学等と連携して実施する事業展開の事例として、一つの方向性を示すことができたと考える。</p> <p>行政や地域の中に、NPOの活動やパートナーシップへの理解が広まることは、NPOにとっても活動機会が広まることにつながると考える。</p> <p>国宝青井阿蘇神社を舞台とした、着装体験、フィールドワーク、創作体験プログラムなどの3つのプログラムを開発したが、学びや作業を重ねる中で、当地には伝統文化として継承していくべき素材がまだまだ多数存在することが発見できており、同時に、人吉球磨地方の伝統文化全般への理解や興味が深まることとなった。</p>
当初予想していなかった効果	<p>活動当初は、膨大な伝統文化資源の中で何から手をつけるべきかわからなかったが、いくつかの要素がうまくかみ合い、結果として期待以上のプログラムができたと考えており、これは大学生、大人、小学生と何度も実験・試行を重ねたことの賜と考えられる。</p> <p>また、人材育成講座の受講生の熱心さに驚いている。途中で脱落する人が多いのではないかと心配したが、夜間や寒い時期にも関わらず、31名中17名の受講生がほぼ全日程参加し、グループ化につながっている。これは、体験を伴うワークショップ形式で進めたことにより、次に何が起こるかわからないというワクワク感を持ってもらったのではないかと考えられる。</p> <p>人材育成講座や実証実験の実施の際に、マスコミに情報を提供したところ、数多く写真入りで取り上げてもらい、関心の高さにも驚いている。マスコミ提供の資料を記事になりそうなポイントを強調して作成したのが効果的であったと考えている。</p> <p>1200年を超える歴史を持つ青井阿蘇神社での取り組みを契機として、神楽とともに、「笑顔」が奏でる伝統文化の継承・発信でありたい。</p>
実施状況(写真)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">【写真】担い手の育成のための人材養成講座(右は神楽の衣装体験)</p>
応募団体名	くまもと教育プロジェクト
リンク	http://www.iec1990.org http://www.edu-producer.net http://www.aoisan.jp/
部局/担当者名	教育プロデューサー 藤井 誠
連絡先	—
推薦市町村名	熊本県人吉市